

# 高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報  
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一  
京都市中京区木屋町通三条上ル  
電話 (〇七五) 二二二二・二八二八

## 《出前館とウーバーイーツは日本の縮図?》

お墓参りの後、門前のカフェで月に一回ランチを戴きながら良く世間話をします。先日マスターから「コロナ禍でいよいよ出前に注力。ウーバーイーツを利用しました。出前館を最初に利用しましたがスタツフが全員正社員で混雑時には数時間待ちもあり、致し方なくウーバーイーツにしました」と。能々お聞きすると正社員数には限りがあり当然比例して配達能力に限りが出てきますが、ウーバーイーツの場合のマッチングビジネスは都度の約定で員数に限りなく、配達能力が無限に?あります。ウーバーが便利そうですが「出前館のスタツフには礼儀があるが、ウーバーのスタツフには挨拶もできない人がいる」とマスターから聞くと複雑な気持ちになりました。

## 京都市京セラ美術館

4月17日〜6月27日

### 《古代エジプト展 天地創造の神話》

古代エジプトの神話では世界の始まりは混沌とした原初の海「ヌン」で、その海から全てのもものが生まれ育まれました。しかし世界の終りがやってくると、全てのものは再び原初の海へ飲み込まれていくとされています。古代エジプトの神話にはこのように「壮大な生と死のサイクル」が描かれています。

そんな古代エジプト人が信じた「天地創造と終焉の物語」をヨーロッパで最大級の規模を誇るベルリン国立博物館のコレクションの中から選りすぐった約130点の作品で紹介します。

構成は第一章「天地創造と神々の世界」。第二章「ファラオと宇宙の秩序」。第三章「死後の審判」で、壮大な世界を分かりやすく解説するアニメーションが用意されています。

## 私の本棚 おすすめの一冊

粉川 剛

### 《予想どおりに不合理/ダン・アリエリー著》

行動経済学のススメ①

2002年、D・カーネマン教授がノーベル経済学賞を受賞し一躍注目を集める「行動経済学」。2008年の発行以来ベストセラーを続けている本書は「行動経済学」を一般の読者にも馴染めるように数々のユニークな実験や著者の経験を披露。気軽にそのエッセンスを味わうことが出来る。伝統的な経済学では人間は「完全な情報と計算能力を持ちその行動は常に合理的かつ利己的」と規定している。しかし「行動経済学」では「人間の意思決定は合理的ではなく直感的。時には利他的な行動もとる」としており、従来の経済学が重視してこなかった人間の「心」に焦点をあてる。現実の経済や金融の動きを理解する手助けとなり日々の生活が豊かになるよう利用に期待が膨らむ。

## 土口哲光和尚の説法

### 《木造の古屋がよかった》

98歳の農婦が天寿を全う。「嫁の料理もグチひとつこぼさず、働くことに専念」。葬儀に息子夫婦が語る母は、8人兄弟の二番目に生まれ、弟妹の子守で小学校も卒業できなかった。18歳で兼業農家の父と結婚。4人の子供に恵まれ昼夜兼行で昼間は農作業、夜は藁で敷物の蓆や薦を編む。手先の器用さ、技術に長けて注文が殺到。息子は長じて知った山本五十六海軍大将の言葉、「言うて聞かせて。させてみて。誉めてやらねば人は動かじ」を母の教訓と受け取る。手伝うと「よくできた」と誉められる。嬉しくて、男2人は技術者に成長。鉄骨で建て替え新築した家で一等を母の居室に当てがうと「私は木造の古家がいいのに」と頑なに言い続けられて、心残りだという。

## 季節の家庭料理

田村真紀

### 《五月 そら豆とむきエビの春巻き》

《作り方・四人分》

春巻きの皮十枚・そら豆三十粒(さつと茹でて薄皮を剥き、半分は割る)・むきエビ二百グラム(塩水で洗い水気を拭き、半分は切る)・エノキ百グラム(一センチ幅に切る)・長葱半本、生姜ひとかけ(みじん切り)・醤油、みりん各大匙二・片栗粉大匙一(同量の水で溶く)・塩胡椒少々・ゴマ油大匙一・揚げ油適宜☆(薄力粉大匙一を同量の水で溶く)フライパンにごま油を加え中火にかけ、長葱と生姜を炒め、そら豆、エビ、エノキも加え炒める。醤油、みりんを加え混ぜ合わせ塩胡椒で味を調える。水溶性片栗粉を加えとろみをつけ、パッドに移し粗熱を取る。具材を十等分し皮で巻き、巻終わりに☆を塗って止める。百七十度の油で揚げる。

## つれづれの記

山崎辰巳

### 《喉もと・足もと》

この世の中、何かコトが起こる度に人々は驚き、慌てふためき、その波紋が広がって社会問題化する。防ぎようのないコロナ禍や自然災害は別として、頻繫に起こる一連の不幸事や失態つづきに歯止めが効かない。その上「再発防止」の決まり文句で幕引きされるとストレスはつのるばかりだ。「ノド元過ぎれば熱さを忘れる」という都合の良い言葉があるが、ノド元過ぎても忘れてはならない課題が山積している。一方、これらの問題に共通する無神経で軽率な行為や言動、地位や肩書きを行使する態度、慢心や奢りこそ戒めるべきである。「脚下照顧―脚元を照らして己を顧みよ」という訓えがある。責任ある立場、リーダーたる者は、まず自分のアシ許を謙虚に見つめ直して行動すべきではないだろうか。